2025 年 3 月 1 日改定
2025 年 6 月 2 日追補

森林総合研究所研究報告の投稿手引き

1．審　　査

投稿された論文（論文、短報、ノート、総説、研究資料）は、すべて審査を受けてその採否が決定される。論文の審査方針を次のように定める。

1．審査の目的

投稿された論文（論文、短報、ノート、総説、研究資料）が、審査の基準に照らして掲載可能か否かを判断することが審査の目的である。

2．審査の基準

(1)新規性：論文の内容が、公知、既発表、または既知のことから容易に導き得るものでないこと。
(2)有用性：論文の内容が、学術的に、または実用上なんらかの意味で価値があること。
(3)信頼性：論旨が通っており、結論等を信頼するに十分な根拠が示されていること。

さらに、論文はその内容が読者に十分理解できるように簡潔かつ明瞭に記述され、その内容に誤りないことが必要で投稿規程及び執筆要領に規定されたとおりに論文が構成され、記述されていなければならない。

3．査読者

投稿された論文の査読者２名（ノート及び研究資料の場合１名）は、担当編集委員が選定し、森林総合研究所研究報告編集委員会（以下、「委員会」という）において決定する。査読者の氏名は公表しない。著者との連絡はすべて委員会が行い、査読者は著者と直接連絡しないこととする。

4．査読の結果

論文等は、上記の各項の基準に照らして総合的に審査され、次のいずれかに判定される。
(1) このまま掲載可
(2) 指摘の点を検討・修正の上、編集委員の了承をもって掲載可
(3) 指摘の点を検討・修正の上、再審査の必要あり
(4) 却下した方がよい（掲載するほどの内容を含まない場合及び掲載すべきでない場合）
(5) 却下した方がよい（構成や内容を大幅修正の上、新規投稿可）
(6) その他

(1)から(5)のいずれかに判定し難い時は、(6)と判定されるが、その場合は担当編集委員によって、その理由が具体的に示される。

(2)、(3)と判定された論文等の場合は、掲載条件が具体的に示されるので、指摘に沿って原稿を修正する。(2)の判定の場合は、重要な内容の訂正を掲載条件としないことを原則とする。全査読者が(1)または(2)と判定すれば、査読は終了し、掲載可とする。全査読者が(4)または(5)と判定した場合は却下となる。

査読者２名による審査で１名が(4)または(5)と判定し、担当編集委員が必要と認めた場合は別の査読者によってさらに査読を行い、その査読者も(4)または(5)と判定すれば却下となる。(6)については、その理由により委員会の討議を経て、編集委員長が著者及び査読者と協議して対応する。

２．投　　稿

１．投稿資格

投稿者は原則として国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所、森林総合研究所林木育種センター、森林総合研究所森林バイオ研究センター（以下「森林総合研究所等」という。）の在職職員とする。その他、元職員、依頼研究員及び共同研究者等が、森林総合研究所等あるいは森林総合研究所等と関係のある場所において研究した成果を含む内容も投稿できる。

２．原稿の種類

原稿は未発表かつ投稿中ではないものに限り、種類は論文、総説、短報、ノート、研究資料とする。論文は、学術上及び技術上価値ある新しい研究成果を記述したもので、本文は概ね和文は 1 万 5000 字以内、英文は 4500 語以内でまとめたものとする。総説は特定の問題や課題について、関連文献や資料等の先行研究を網羅的に分析して論評したものとする。短報は速報性が求められるもので、本文は概ね和文は 1 万字以内、英文は 3000 語以内でまとめたものとする。ノートは価値のある新事実又は結論を含むもので、本文は概ね和文は 5000 字以内、英文は 1500 語以内でまとめたものとする。研究資料は、観測・実験・試験・調査などにより得られた各種データをまとめた資料として有用なものとする。プレプリントサーバーに投稿した原稿については未発表の扱いとし、研究報告への投稿を受け付ける。ただし、研究報告投稿後はプレプリントサーバー上の当該原稿を更新しないこととする。また研究報告掲載後は著者が研究報告に掲載された論文等の書誌情報をプレプリントサーバーに掲載しなければならない。

３．査読候補者

投稿者は査読候補者（suggested reviewer）を 4 名まで推薦できる。推薦する場合、査読候補者の氏名、所属、E-mail アドレス、推薦理由を明記した別紙（フォーマットは問わない）を提出すること。なお、査読者の最終的な選定は編集委員が決定するため、必ずしも査読候補者が審査に加わるとは限らない。

４．原稿の提出

投稿者は、編集委員会が別に定める執筆要領に基づき作成した原稿を「研究報告原稿提出書」とともに広報普及科編集刊行係に提出する。なお、共著原稿の提出に当たっては、その原稿内容について共著者全員の同意を得ることとする。提出する原稿は電子ファイルとする。

５．原稿の修正

修正原稿が 2 か月以内に、短報及びノートでは 3 週間以内に再提出されない場合には受付を取り消す。なお、特別な理由により期限内に提出できない場合は、期間延長を編集委員長に文書で申し入れする。

６．原稿の却下

再審査を終えても受理されない論文等については委員会により却下されることがある。

７．使用言語

使用言語は日本語または英語とする。

８．著作権

報告の著作権は国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所に帰属する。掲載論文の全体または一部を他の著作物に利用する場合、事前に編集刊行係に申し出て、編集委員長の許可を得るものとする。

９．公開

研究報告に掲載された論文等は、国立研究開発法人森林研究・整備機構のホームページ及び機関リポジトリ、J-STAGE で公開される。

3．執 筆 要 領

1． 原稿の書式

1）ファイル形式

・原稿本文は Microsoft Word ファイル形式で提出
・図・写真は JPEG や PDF、PPTX など汎用的なファイル形式で提出
・表は Excel 形式で提出

2）共通

▽Word のレイアウト設定
・横書き
・「余白」上下左右 30mm
・「サイズ」A4
・フッターに「ページ番号」、左余白に「行番号」（連続番号）

3）和文

・1 ページあたり 40 字×20 行
▽フォント
・明朝体 10.5 ポイント

4）英文

・1 ページあたり 25 行
▽フォント
・Times New Roman10.5 ポイント

2． 英文校閲

英文原稿及び和文原稿の英文摘要は原稿提出前に必ず英文校閲を受ける。

3． 使用語句

1）共通

・英数字は半角とする
・複数単語をつなぐ横棒、減算記号は-（ハイフン）
・期間やページなどの範囲を示す横棒は–（EN ダッシュ）（Win: Ctrl＋-キー、Mac: Option＋-キー）
・副題や文中文の挿入を示す横棒は—（EM ダッシュ）（Win: Ctrl＋Alt＋-キー、Mac: Option＋Shift＋-キー）
・括弧、カンマ（,)、アポストロフィ（')、ピリオド（.)、セミコロン （;） 等の英文記号は半角とし、その直後に半角スペースを入れる。（校正時にレイアウトの都合等で事務局が必要に応じて全角表記へ変更する場合もあり）
・英数字をくくる括弧は半角とし、左括弧の前と右括弧の後に半角スペースを入れる
・ローマ数字は半角ローマ字で記述
・機種依存文字や外字は使わない

具体的には下記の例を参照（_は半角スペースを表す)。

・・・であると考えられる_(堀・河合_1965a,_b,_Dropkin_et_al._1979)。
・・・堀ら_(1965)_の報告がある。
・・・ウスバシロチョウ_(別名ウスバアゲハ)_は、・・・

引用文献

Ahmad,_Q._A._(1952)_Fungi_of_East_Bengal._Pakist._J._For.,_2,_91–115.

2）和文
・現代仮名遣いとし、「である」調で記述
・「～」は範囲を示す場合にのみ使用可（副題等は EM ダッシュ使用）
・句読点は「、」「。」とする
・学術用語・専門用語・固有名詞以外は常用漢字を使う
・常用外漢字や難読字を使う場合は本文の初出箇所に読み方ルビ
・生物の和名はカタカナ表記
・企業団体の法人格は略語((株)など)を活用。著名な企業団体では省略（国立大学法人など）
・森林総合研究所に「森林研究・整備機構」を冠しない
・漢数字の後は「箇所」、算用数字の後は「か所」（公用文）
・ビタミンの数字表記は下付きとする（日本食品標準成分表参照）
・年号は西暦を使い、元号表記が必要な場合は[西暦]年（[元号]年）とする。

3）英文
・アメリカ英語、イギリス英語いずれかに統一して記述する。

4）数式・単位
・数量単位は国際単位系（SI）により記号表記（推奨）
・数値と物理単位の間に半角スペース
・%（パーセント）、°(度)、′(分)、"(秒)の前に半角は不要
・数式は、丸括弧番号を付し、その前後の行は空白とする
・定数を表す英字は正体（立体）とし、物理量や変数はイタリック体
・算術記号（+、-、=、<、±）の前後に半角スペースを入れる
・例外として除算の斜線“/”の前後に半角スペースを入れない
・正負を意味する「+」「-」は数値との間に半角スペースを入れない
・≧≦は和文フォント全角記号で代用。半角スペース不要
・℃は英文フォントで °(Alt＆0176）と C
・数式内の積記号（×、・、＊）は使わない

4．原稿本文の構成

原稿の構成は次の順による。プレプリントサーバーに投稿している場合はサーバー名と当該投稿の DOI を表紙末尾に記載する。

1）和文原稿
(1) 表紙＜原稿の種別・表題・著者名・所属・英文表題・英文著者名・英名所属・和文ランニングタイトル（・プレプリントサーバー名と DOI）＞
(2) 要旨（ノートでは不要）
(3) 日本語キーワード
(4) 本文
(5) 謝辞
(6) 引用文献
(7) 補足電子資料の表題と説明・注釈
(8) 英文要旨（Abstract）（ノートは不要）
(9) 英語キーワード（ノートは不要）
(10) 図・表・写真のタイトルと説明文・注釈の一覧

2）英文原稿
(1) 表紙＜原稿の種別・表題・著者名・所属・和文表題・和文著者名・和名所属・英文ランニングタイトル（・プレプリントサーバー名と DOI）＞
(2) 要旨（ノートでは不要）
(3) 英語キーワード

(4) 本文
(5) 謝辞
(6) 引用文献
(7) 補足電子資料の表題と説明・注釈
(8) 和文要旨（Abstract）（ノートは不要）
(9) 和文キーワード（ノートは不要）
(10) 図・表・写真のタイトルと説明文・注釈の一覧

5．表題

英文の表題は副題を含め、先頭単語の頭文字を大文字とし以後は小文字（固有名詞、略称を除く）。

6．ランニングタイトル

和文）全角 25 文字以内
英文）空白含め半角 50 字以内

7．著者名

和文）
・共著者を読点（、）で区切る
英文）
・通常使用しているローマ字で、名（頭文字のみ大文字)、姓（すべて大文字）の順
・共著 2 人の場合は and で区切り、3 人以上はコンマ（,）と and で区切る

8．所属と連絡先

所属名）
・著者の所属は、投稿受付時の所属として記載する
・受付時、既に退職している場合の日本語表記は「元森林総合研究所」とし、英語表記は退職時の所属組織名も記載
・著者名右肩に洋数字と小括弧閉じ「)」を付した上で、それぞれ所属する研究領域・支所・試験地名等の組織名を脚注に記載
・所属を記載できない場合は肩書きと住所（市区町村名まで）を記載する(例：茨城県つくば市)
連絡先）
・著者 1 人を連絡先（corresponding author）とし著者名右肩に*を付す
・連絡先著者は所属組織の名称・所在地、著者のメールアドレスを記載
・所属がない個人はメールアドレスを記載

9．要旨

・要旨は目的、方法、結果などを簡潔に示す
・和文では論文・総説が 600 字以内、短報・研究資料が 300 字以内
・英文では論文・総説が 300 語以内、短報・研究資料が 150 語以内
・ノートでは不要
・改行しない
・略語、慣用語を使わない
・本文中の表・図・式を引用する番号は記載しない

１０．キーワード

・論文、短報、総説、研究資料で７語以内、ノートで５語以内
・和文と英文とで語数、記載順をそろえる
・英文では、固有名詞を除き、小文字
・表題に既に含まれる単語や、意味が広い漠然とした単語は使わない（推奨）

１１．本文／見出し

・本文の区分けとなる「中見出し」は、１行取りの中央揃えで書く
・「中見出し」間をさらに区分けする「小見出し」は左詰めでゴシックフォントとする
・必要に応じてポイントシステム（ex. 1. 2. 3 あいうえお）が使用可
・英文の見出しは冒頭単語の頭文字を大文字

１２．引用文献

１）本文中引用紹介

引用文献の記載は下記の例に従う。（_は半角スペースを表す。掲載ページ範囲の–は EN ダッシュ）

①文中での引用表示

・引用文献の著者が１人…[姓]_([発表年])、英文は[Surname]_([year])
　近年、堀_(1965)_は～、　Ahmad_(1952)_～

・引用文献の著者が２人…[姓 1]・[姓 2]_([年])中点は全角、英文は[Surname1]_and_[Surname2]_([year])
　堀・川合_(1965)_は～、　Ahmad_and_Baker_(1952)_～

・引用文献の著者が３人以上…[筆頭著者の姓]ら_(年)]、英文は[First author's surname]_et_al._([year])
　堀ら_(1965)_は～、　Ahmad_et_al._(1952)_～

・著者姓・出版年が同じ引用文献が複数ある場合…年の後に a、b をつけて区別
　田中_(1952a)_は～、　田中_(1952b)_は～

②文末での引用表示

・引用文献の著者が１人…([姓]_[年])、英文は([Surname]_[year])
　(堀_1965)。　(Ahmad_1952)。

・引用文献の著者が２人…([姓 1]・[姓 2]_[年])中点は全角、英文は([Surname1]_and_[Surname2]_[year])
　(堀・川合_1965)。(Ahmad_and_Baker_1952)。

・引用文献の著者が３人以上…([筆頭著者の姓]ら_[年])、英文は([First author's surname]_et_al._[year])
　(Dropkin ら_1979)。(Dropkin_et_al._1979)。

・著者姓・出版年が同じ引用文献がある場合…年の後に a、b をつけて区別
　(石塚_1990a,_b)。

③同一箇所での複数引用文献の並べ方
・出版年の順に記載し、コンマで区切る
・同年出版の文献は著者姓の ABC 順とし単著を先行
・同一著者は出版年ごとにまとめて記載。同一著者で同年出版の文献は、年の後に a、b をつけて区別
（田中_1984,_1989,_石塚_1988,_1990a,_b）

④特定ページを明示したい場合
・発表年の後にコロンを入れて該当ページ数
・([姓]_[年]:_[ページ])、([姓 1]・[姓 2]_[年]:_[ページ])、([筆頭著者の姓]ら_[年]:_[ページ])
（田中_1984:_18)、(堀・川合_1965:_24)、(Dropkin ら_1979:_16）

⑤訳本は原著者姓と原著発行年を記載
（ブレーヌ_1989）
⑥私信の扱い
・([姓名],_[所属],_私信)と表記し、所属は省略可。引用文献リストには記載しない
⑦前置詞 von や de 等の扱い
von や de 等の前置詞は姓の一部として扱うが、大文字にはしない。記載順は前置詞に続く単語を基準とする
Herbert_von_Karajan → von_Karajan,_H.

2）引用文献リスト
・基本形は<[著者名]_([発表年])_[タイトル]._[媒体名],_[巻数],_[掲載開始ページ]–[掲載終了ページ].>
・[著者名]は姓名順で記載し、姓名間は和名が全角スペースで、英名がコンマ(,)で区切る
土井寛大_(2023)_森林総合研究所構内で採取されたタカサゴキララマダニの報告._森林総合研究所研究報告,_21,_261–365.
Ahmad,_Q._A._(1952)_Fungi_of _East_Bengal._Pakist._J._For.,_2,_91–115.

・媒体全体を文献とする場合は、[著者名]_（[発表年])_[媒体名],_[発行元],_[総ページ数]pp.
・電子ジャーナルは<[著者名]_([発表年])_[タイトル]._[媒体名],_[巻数_([号数])],_[論文番号].>
・和名の共著者は中点で区切る
・英名の共著者はコンマと and で区切る（２人の場合は and のみ）
田島正啓・宮島　寛・宮崎安貞_(1977)_ヒノキパーオキシターゼ・アイソザイムの遺伝子分析._日林誌,_59,_173–177.
Reunanen,_M.,_Ekman,R._and_Heinonen,_M._(1989)_Analysis_of_Finnish_pine_tar_and_tar_from_the_wreck_of_Frigate_St._Nikolai._Holzforschung,_43,_33–39.

・英文投稿での和文文献の引用は英名でリストに記載し、文献末尾ピリオドの後に「(In Japanese)」と追記。
・英文投稿での英文要約付き和文文献の引用は文献末尾ピリオドの後に「(In Japanese with English summary)」と追記。
・リストは著者姓の ABC 順に列記し、同姓者が複数の場合は名の ABC 順（和名読みは訓令式）

・株式会社や一般社団法人など法人格を冠する企業団体による著作物の場合は法人格名の次に来る名称の ABC 順とする。

・同一著者の文献が複数の場合は単著先行で年代順に並べる。
・共著の場合は第２著者の姓の順。筆頭・第２著者も同一なら第３著者の姓の順で、以下同様。
・同一著者の同一年の文献が複数ある場合は、年の後に a、b、c を付けて区別する。
・編者は日本語文献が「編」（括弧不要）を、外国語文献が「(Ed)または(Eds)」を、編者名の後に付す。

① 雑誌を引用する場合

Ahmad, Q. A. (1952) Fungi of East Bengal. Pakist. J. For., 2, 91–115.

Baker, C. F. (1914a) A review of some Philippine plant diseases. Philip. Agr. & For., 3, 157–164.

Baker, C. F. (1914b) First supplement to the list of the lower fungi of the Philippine Islands. Leafl. UPhilip. Bot., 7 (Art113), 2417–2542.

Dropkin, V. H. and Foudin, A. S. (1979) Report of the occurrence of *Bursaphelenchus lignicolus* induced pine wilt disease in Missouri. Plant Dis. Rep., 63, 904–905.

Reunanen, M., Ekman, R. and Heinonen, M. (1989) Analysis of Finnish pine tar and tar from the wreck of Frigate St. Nikolai. Holzforschung, 43, 33–39.

・誌名の略記法は慣例にならう。

堀　高夫 (1965) 路網計画のための図上地形判定について. 日林誌, 47, 168−170.
森　章 (2001) イチイガシの種子生産における同化産物投資. 日林誌, 83, 93−100.
田島正啓・宮島　寛・宮崎安貞 (1977) ヒノキパーオキシターゼ・アイソザイムの遺伝子分析. 日林誌, 59, 173−177.
上野洋二郎 (2000) 森林計画における森林諸機能の最適配分. 日林誌, 82, 360−363.

・巻の定めがなく、号のみが定められた雑誌の場合、以下のように表記する。

猪内正雄 (2001) 森林作業の機械化が森林環境にどんな影響を及ぼすのか. 森林科学, 32, 25−33.
岡田恵子 (2013) 国民の意識の変化の的確な把握に向けて: 内閣府の世論調査から. 社会と調査, 10, 87−96.

② 書籍を引用する場合

・出版社の法人格は省略する（例：株式会社岩波書店→岩波書店）

（本一冊を引用する場合）

三浦伊八郎・西田屹二 (1948) 木材化学. 丸善, 690pp.

（複数の著者によって書かれた編集本の特定部分を引用する場合）

沼田　真 (1967) 植物的環境の解析と評価. 森下正明・吉良竜夫編 “自然:生態学的研究”. 中央公論社, 163−187.

（叢書の特定部分を引用する場合）

川合眞一・田中早苗 (1963) “実用化学講座 17 巻有機化合物の反応(下)”, 第２版. 日本化学会編, 丸善, 210−212.

（欧文の単行書のタイトルはイタリックとする）

Ishii,_M._(1996b)_Decline_and_conservation_of_butterflies_in_Japan._In_Ae,_S._A., Hirowatari,_T., _Ishii,_M._and_Brower_L._P._(eds.)_"*Decline_and_Conservation_of_Butterflies_in_Japan_III*"._The_ Lepidopterological_Society_of_Japan,_Osaka,_157–167.

（訳本を引用する場合は，原著者名（訳本の表記に従い，姓・名の順）や原著発行年等を引用する）

ブレーヌ　ジャン_(1989)_(永塚鎮男訳,_2011)_人は土をどうとらえてきたか:_土壌学の歴史とペドロジスト群像,_農山漁村文化協会,_415pp.

③　Web ページの引用

基本形は<[著者名]_([発表年])_"[ページタイトル]"._ [ページ URL],_(参照_yyyy-mm-dd).>

環境省_（2004）_"田んぼの生きもの調査". _https://www.env.go.jp/nature/satoyama/tanbo.html _（参照_2008-01-24).

Finger_Lakes_Resource_Conservation_and_Development_Council_(2007)_"Forest_land_best_ management_practices_in_the_Finger_Lakes_Region_of_New_York_State",_http://www.dnr.cornell.edu/ ext/bmp/index. html,_(accessed_2007-11-30).

・[発表年]はウェブページの公表（更新）年を使う。

・公表（更新）年が不明な場合は著者が当該ページを確認した年次とする。

・ページタイトルをダブルコーテーション（""）で括って文献タイトルとする。

・ブラウザに表記されるページタイトルと、ページ内記載の表題が異なる場合はページ内表題を記載する。

・閲覧日は和文が「(参照_yyyy-mm-dd)」、英文が「(accessed_yyyy-mm-dd)」と記載する。

・URL は先頭にプロトコルを示す https://を付す。

・官公庁などの冊子体資料がネット上でもデータ公表されている場合は、その掲載 URL を追記。分割公表されている場合は先頭ファイルの URL のみ記載。

（例）

環境省_(2002)_平成 13 年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告書._環境省,_122pp, _https://www.env.go.jp/earth/report/h14-03/index.html.

１３．図・表・写真

・図はそれぞれ、接頭辞「Fig.」（または「図」）と通番(Fig.2、図 2 など)によって文中指定する。ファイル形式は jpg、png、tif、pdf とする。

・表はそれぞれ、接頭辞「Table」（または「表」）と通番(Table 1、表 1 など)によって文中指定する。ファイル形式は Excel とする、表に縦罫は使わない。

・写真は接頭辞「Photo」（または「写真」）と通番(Photo 3、写真 3 など)によって文中指定する。ファイル形式は Jpg または png とする。

・審査用として汎用的なファイル形式（PDF など）に変換して投稿できる。「受理」後は元データを提出する。

・図・表・写真はその趣旨が容易に理解できる説明文を付ける。

・和文原稿における表題・説明文・注釈は和文、英文または和英併記とする。

・本文中に掲載する位置・サイズ（本文 1 段幅または 1 ページ幅）を本文中にそれぞれ指定できる。

１４．補足電子資料（Supplementary data）

・膨大な図・表・写真をはじめ、本文中の掲載が難しい資料（動画・音声やプログラムなど）は「補足電子資料」として別途ウェブ公開できる。

・本文中では通番の前に S を付けて指定する（Fig. S1, Table S1, Movie S1, Sound S1, Script S1 など）。

・引用文献リストの後に公開先 URL、表題・説明文・注釈の一覧を記載する。

１５．付録（Appendix）

本文の内容に補足して掲載したい図表を、付録として誌面の引用文献の後に掲載することができ、本文中にも引用できる（例； Appendix Fig. 1 ， Appendix Table 1）

また付録の掲載対象は、論文、総説、研究資料とする。